

# Lessons in Flexible Thinking

**Naoyuki Honda** sanctuary books

Lessons  
in Flexible  
Thinking  
CHAPTER

1

思考を自由にするために

# 日常を 壊す

なにをやっても続かない。飽きっぽい。  
それはひとつの才能かもしれない。

# 01

## Lesson

### 知らない世界をどれだけ 目撃するかによって、 人生の満足度が決まる。

面白い大人たちは、とにかく好奇心が強い。

とくに50歳、60歳になっても若々しく、日々楽しそうに生きている人は、例外なくそうだ。

「世界中のうまいものを食べてみたい」「見たことがない景色を見てみたい」と、自分をとり巻く世界に対して強い興味を抱いている。

好奇心が強いか弱いかは、生まれ持った性格によって決まるものではない。

子どものころは、誰もが好奇心のかたまりだ。なにを見ても、なにを聞いても、キラキラと目を輝かせる。



どれだけ外見にお金をかけたとしても、  
好奇心にあふれている人の魅力には勝てない。

ところが大人になるにつれて、なにを見てもすぐにわかった気になる人と、好奇心をむき出しにする人にわかれる。

どっちが得だろうか。

少なくとも、自分が知らない世界なんていくらでもある。きりがなくらいある。そして知らない世界を見れば見るほど、もっと知りたいことが広がっていく。

行ったことがなかった外国を訪れると、その国の歴史を知りたくなる。

歴史を知れば、こんどは建築や文化も知りたくなる。

そうやって「知りたい」と思うだけで楽しいし、そうやって「知っていく」ことによつて、さらに見えてくるものがある。

それは自分が本当に求めているものであったり、自分が新たにめざしたいと思う生き方である。

## 旅のように生きる。

制限のないところに自由はない。

「なにをやってもいい」「どれだけ時間をかけてもいい」という状況になると、人はどうしていいかわからなくなる。

自由な日々を過ごしたい、というのなら簡単だ。

旅のように過ごせばいい。

旅には時間の区切りがあるから、一生懸命になる。

区切りの中をできるだけ充実させたいから、事前に準備もするし、調べたりもするし、一つひとつの物事に喜びを感じようとする。



自分のやっていることのなにが無駄で、なにが有益か。  
リミットを決めたときに初めてわかることもある。

日常の人生には区切りがない。区切りがないから、一日だから寝たり、ぼんやり過ごそうとする。

でもしも旅のように生きることができれば、旅をしているときのように決断できれば、一日の密度は自然と濃くなっていく。

つまり限られた期間で全力を尽くしたり、自宅の周辺環境やインフラ、すばらしい仲間の存在や、家族の健康などに感謝できるようにする。

まわりの景色も、会う人も、違って見えてくる。だから寝て過ごすなんてありえない。